

日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート レポート <第35号>

*被災地支援の訪問演奏は、2011年4月から2016年8月末までで通算197回となりました。

2016年10月

発行：(公財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166-0011 東京都杉並区梅里1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

酷暑の夏の終わりとともに、大型の台風が次々と日本列島を襲い、津波被害を受けた東北各地で洪水被害が相次いでいます。私たちが被災地支援で演奏をお届けした岩手県久慈市、釜石市、宮古市、山田町などにも大きな被災をもたらしました。6月の訪問をコーディネートしていただいた久慈市アンバーホールの職員の方からは、こんな連絡がありました。

「久慈市はこの度の台風で、被害を受けた建物件数等が、3.11の震災を超える甚大な被害となりました。市内の中心部は川の氾濫により大部分が浸水し、皆様の宿泊されたホテルや、食事を一緒にした居酒屋なども浸水の影響で現在は営業停止となっております。アンバーホールは幸い浸水被害はホール地下部分やエントランスの一部に留まり、現在は通常とおり開館出来ている状況です。仕事の種類も増え大変ですが、市役所職員一同で復興に向け一丸となって頑張っております。」

再び水の脅威にさらされ懸命に復興の努力をされている多くの方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

6月16日

2016年6月16日から18日まで岩手県久慈市に行きました。参加はトランペット橋本洋、松木亜紀(賛助)、ホルン矢野健太(賛助)、トロンボーン岸良開城、チューバ柳生和夫の5名です。

子どもたちと未来をつなぐクリニック

6月16日夕方から市内中学校、高校吹奏楽部、そして社会人の吹奏楽愛好家のクリニックを行いました。アンバーホールは市の直轄なので、教育委員会文化課がホールの中にあります。ホールと学校の関係が近いということが、募集の段階、当日の進行などに現れていて、あたたかい空気が流れていました。

クリニック参加者は55名。中高生に社会人が加わると、「40年楽器を演っていて地域のアンサンブルに加わっています。」という自己紹介があたりします。そういうのを聞くと、子どもたちにとっても、この街で成長してこの先もずっと音楽をやり続けることができるという希望の姿が見えていて、これもいい感じでした。

受講生の皆さんからは「レッスンを受けさせていただき、コツがわかってとても励みになった。」「きれいな音の出し方などを一つ一つ丁寧に分かりやすく教えてくれて嬉しかった。」などの感想が寄せられました。



久慈市文化会館アンバーホール 外観



6月17日

ブラス・コンサート in アンバーホール

翌日17日は、アンバーホールで金管五重奏のコンサート。約200名ものお客様に来ていただきました。演奏曲目は、シャイト/闘いの組曲、バーンスタイン/ウエストサイド・ストーリー、バルボトゥ/シャンソナリー等。「音が透明感があってとてもきれいで、迫力があつた。」「5人とは思えないほど音の響きがあつて凄かつた。」と感想が寄せられました。



6月18日

3年ぶりの再会、間近で感じたプロの呼吸

3日目18日は、朝10時から久慈高校で金管五重奏のコンサート。吹奏楽部、マンドリン部、合唱部の70名が聴きました。3年前にこの「被災地に音楽を」の活動で市内全中学校にクリニックに訪問したので、その時指導を受けた生徒もたくさんいました。こうやって繋がっていくと楽しいです。コンサート終了後、部長さんが「いつもの部室でプロのアンサンブルを聴けて、息を合わせる様子や、他の人の音を聴きあうことなど、勉強になった」と挨拶してくれました。

